

# 「東日本大震災」対策 news NO.50

2011年8月5日(金)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

## 全労連青年部ボランティアに参加して

生協労連 大井信人



4月上旬に、業務支援（生協の配達再開）で石巻市に行き。7月3日に、生協労連青年部会の幹事会で、宮城県七ヶ浜町においてボランティアをさせていただき。そして今回、全労連青年部のボランティアに参加で陸前高田市へと、3回被災地に行かせていただきました。

ボランティア当日、山間地にあるボランティアセンターから、沿岸部に車で降りていき、被害地域に入った時は、ずいぶん瓦礫が片付いていると感じました。自動車が整然と積まれていて、瓦礫はまとめて積上がっています。そして、家の基礎も掘り起こされていて、さら地になっています。しかし、ボランティアの現場につき車から降りると、まだまだ片づいていないことに気づきます。重機が入ったところ、重機でできる部分では片付いているのです。

23日の作業は、お祭りの栈敷席を作るための下準備です。重機が入って瓦礫が片付いているところに、ガラスの破片、割れた陶器などを、一つ一つ取り除いていくこと、人間でないとできない作業です。この日は、50人から60人のボランティアで作業をしていましたが、出来る範囲はとても限られています。作業に没頭していて、ふっと力を抜きまわりを見渡した時、広大なさら地を見て途方に暮れることもあります。初めて被災地を訪れた人ほどそのように感じると思います。そして、再訪したくもなります。

24日の作業場所に入ったときには、前日に感じた、片付いているという感覚は思いっきり打ち砕かれました。手つかずとまでは行きませんが、瓦礫をまとめただけ、曲がったレールはそのまま放置、海岸に目を向けると流された住宅が浮かんでいる、そのような光景でしたから。

石巻も七ヶ浜もそして、陸前高田も津波の被害の跡は、同じ光景。しかし、ボランティアの数は、差があるように感じました。マスコミで紹介される頻度の差が、そのまま表れているように感じます。重機で行うことのできない作業、細やかな作業でより差があるように感じます。

復興という言葉が全く当てはまらない状態です。まだ瓦礫の片付けさえ出来ていないのですから。これからも、人の力が必要です。時間や機会があれば、現地に訪れてボランティア活動や、自分で出来ることを継続して行いたいと思います。長い時間をかけて、様々なチカラを被災地に届けていきましょう。



### ●東電と政府は被害を速やかに全面賠償せよ●—8月3日の東電前行動に350人結集—

農民連と全国食健連は8月3日、「東電と政府は被害を速やかに全面賠償せよ」の行動を行いました。参加者からは、「賠償請求を提出しているのに未だに支払われていないのはなぜか」（福島や千葉、茨城の農家）「収入の道が断たれたのに東電は賠償しないのか」（畜産農家）「融資も断たれ東電から電気も止められた」（群馬の農家）など現地から、怒りを込めた告発がありました。

# 避難所で福島産 夏野菜大好評！

毎日のお仕事御苦労さまです。

7月29日に最終となり第8回生協炊出しボランティアをあづま総合運動公園体育館で行い、総勢9名の職員・ボランティアで福島県の夏野菜を避難所のみなさんに提供をしました。

今回は、生協しずおか労働組合の湯澤 洋江さんが遠くから参加していただき、生協しずおか労組からの義援金をお届けいただきました。



熱々のトウモロコシを渡す???さん



今が旬である福島県産のトマト・きゅうり・カットキャベツ(これだけは宮城県産)でサラダを作り、透明なボールにきれいにドレッシングを付けて盛り付けをして提供しました。避難所では、ほとんどがパンとおにぎりが昼食の定番のメニューで、炊き出しがあっても脂っこいものが多い中で、新鮮な福島県産の野菜は大好評でした。

あづま総合運動公園の避難所におられる方は、ほとんどが放射能の影響で避難された浜通りの方で、正直言って福島県産の野菜を敬遠するかもしれないと心配をしていましたが、非常に喜ばれました。

又、トウモロコシは、茹でたての熱々の物をみなさんに提供しました。鍋からおいしい匂いが立ち上る中で、トウモロコシを食べた方の中には「おいしかったよ！今年に入って初物だよ！」「甘くておいしいので、もう一本もらえないか？」と非常に好評でした。

今回の、予定をしていた炊出しボランティアは終了となります。8月には仮設・借上げ住宅に移ることになっていますが、その時点で新たなボランティア活動を模索していきたいと思えます。



多くの方にご参加・ご協力をいただきありがとうございました。